

ワケ カタチには理由がある(10)

～ブリストル・ボーフォート(Beaufort)雷撃機



[ブリストル社の広告(1910年)]



本機は、1939年に初飛行した、第二次世界大戦前半に使用された英国空軍の雷撃機です。ブリストルという会社、もともと航空機製造の黎明期に財閥によって創業されたせいか、この航空機メーカーが世に送り出した機体は、どこか重厚な現場感を漂わせるものが多いように感じます。このボーフォート爆撃機もその一つで、最先端技術を使った繊細な飛行機というよりも、蒸気機関車のボイラーを思い起こさせる、重機械という趣があります。このメーカーは大戦後1959年にBACに合併されるまで存続します。洋上航法用の八木アンテナやお腹に半埋め込み式で魚雷を搭載する構造もポイントです。オーストラリア軍も使用した機体で、日本軍の隼や零戦もこの機体と戦いを交えたと思うと親近感が沸きます。

【模型について】

チェコのスペシャルホビー(Special Hobby)製1/72のインジェクションキットです。そもそも華々しいスポットライトが当たる機体ではないため、模型化される機会が少なかったわけですが、過去には英国のフログのキット(オールドタイマー)やオーストラリアのハイプレーンズのキット(デザインは良好だがスキルが必要)がありました。このキットが出て気軽に作れる機体となりましたが、英国のエアフィックスが、今年、新しいキットのリリースを予定しているの、より手軽にこの機体を楽しめるようになるでしょう。(中川裕幸 2021年3月)